

経営改革プラン 23年度実績・病院自己評価(経営指標に係る数値目標)

【財務に係る数値目標】

項番	項目	19年度実績値	20年度見込値	20年度実績値	21年度計画値	21年度実績値	22年度計画値	22年度実績値	23年度計画値	23年度実績値	差引き	苫小牧市立病院自己評価・分析	
												評価	コメント
1	経常収支比率 (%)	89.9	92.7	93.6	97.4	96.6	100.7	100.3	101.7	103.5	1.8	A	22年度の経常収支は31百万円でしたが、23年度は325百万円となり、さらに改善しました。この結果、経常収支比率は22年度と比べて3.2%改善し、計画値を大幅に上回りました。
2	職員給与費対医業収益比率 (%)	52.7	51.5	51.2	49.2	50.9	47.0	49.6	46.8	48.6	1.8	C	この数値は21年度以降計画値を上回っていますが、23年度も医業収益で711百万円(消費税抜き)上回りましたが、医師や看護師などの医療スタッフの確保に努めた結果、職員給与費で492百万円超過しているため、計画値には達しませんでした。なお、22年度との比較では1.0%改善しています。
3	材料費対医業収益比率 (%)	29.1	28.2	26.7	26.2	24.5	25.8	23.4	25.8	23.0	△2.8	B	計画値よりは下回っているものの、22年度と比べて、材料費は9百万円増加しました。一方、医業収益が大きく伸びていることから、実績値は前年度よりも0.4%低下しました。
4	一般病床利用率 (%)	86.6	86.2	86.9	86.6	87.6	87.5	86.9	88.0	87.4	△0.6	B	23年度は計画値と比較して、延べ入院患者数が495人減少し、一般病床利用率は低下しましたが、22年度と比べて300人ほど減少幅を圧縮し、計画値をほぼ達成しました。延べ入院患者数減少の要因は、一部診療科の医師の中途退職したことや平均在院日数が22年度12.9日から23年度12.6日と短くなったことなどによります。
5	入院患者1人1日当たり収入額 (円)	42,287	44,122	43,807	46,834	46,525	47,074	49,535	47,074	49,862	2,788	A	23年度もプラス改定となった22年度の診療報酬改定の影響を受けているなかで、引き続き増収となる施設基準の適用を受けるなどの体制整備に努めた結果、大幅な入院診療単価の増加となりました。
6	外来患者1人1日当たり収入額 (円)	7,885	8,571	8,679	8,679	9,690	8,679	10,218	8,679	10,700	2,021	A	外来診療単価増加の要因は、入院と同様に診療報酬のプラス改定の影響を引き続き受けていることとあわせて、人工透析や外来化学療法などの診療報酬の高い治療が増えたことによります。

【その他の指標】

項番	項目	19年度実績値	20年度見込値	20年度実績値	21年度計画値	21年度実績値	22年度計画値	22年度実績値	23年度計画値	23年度実績値	差引き	苫小牧市立病院自己評価・分析	
												評価	コメント
7	紹介患者数 (人)	7,023	7,670	7,537	7,900	7,774	8,140	8,099	8,380	8,308	△ 72	C	平成23年度に各診療科代表者に紹介患者の対応についてヒアリングを実施しスムーズに受診できるよう検討し、昨年度より件数が209件増えましたが計画値を越えるまでには至りませんでした。平成24年度についても引き続き検討していきます。平成23年度は看護師長(地域連携相談センター副主幹)が市内医療機関を訪問し、逆紹介、病院マップの協力、PETCT依頼についてお願いしました。(20件程度)平成24年度についても病院訪問を実施し、紹介患者の獲得、逆紹介の推進に向けて取り組んでいきます。
8	救急患者数 (人)	14,550	10,620	10,469	10,410	8,352	10,200	6,257	10,000	4,734	△ 5,266	B	救急患者数は、平成23年度も引き続き減少傾向となりました。救急車の受入れ患者数は、前年度比2,617件から2,661件と44件の増加となり、一次救急と二次救急の役割分担が当市において明確になってきたと考えられます。
9	手術件数 (件)	2,121	2,230	2,381	2,300	2,562	2,370	2,538	2,440	2,647	207	B	23年度は、対前年度比で109件の増、計画に対しても207件の増となり、目標達成となりました。手術件数のうち、1,753件が全身麻酔による手術となりました。診療科別の増減では、主に整形外科で120件、眼科で68件、泌尿器科で15件、脳神経外科で10件の増加となりましたが、外科で7件、産婦人科で51件、歯科で7件、耳鼻咽喉科で35件の減少となりました。

経営改革プラン 23年度実績・病院自己評価(経営効率化のための具体的な取り組み)

【医療提供の充実】

項番	項目	内容	目標年次	苫小牧市立病院自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
1	外来診療体制の強化	計画的に診療ブースを増やすとともに、医療事務補助者を増員し外来診療の円滑化を図る。	21年度～	A	23年度は外来2ブロックに診療ブースを増設しました。脳神経外科や整形外科の診察室に充てられております。ブースの増設についてはスペースの都合上これ以上は困難なため、今後は予定がありません。スタッフスペースや端末設置などの見直しにより今後、診療の円滑化を図りたいと思います。医師事務作業補助者については、平成23年7月に現在の18人体制とし、診療報酬における医師事務作業補助体制加算25対1の届出を行い、受理されております。
2	がん診療の充実	がん診療の体制を整備し、放射線治療や化学療法を受け入れ患者数を拡大する。また、緩和ケアの専任者を育成する。	21年度～	A	23年7月からストーマ外来を新設しました。23年11月に、第2回緩和ケア研修会を開催しました。
3	放射線治療の開始	放射線治療機器を導入し、患者受け入れを行う。	20年度～	B	23年度では、治療実患者数は136人と前年度比で△3人となりましたが、延人数では昨年度比で28人増の283人となりました。 治療医につきましては、大学病院から週一回来院する非常勤体制が継続しており、常勤医師の配置を大学に引き続き求めていきます。
4	助産師外来の開始	正常な妊娠経過をたどっている妊婦を対象に助産師が健診や保健指導を行い、助産師の専門性を生かしたきめ細やかなサービスを行う。	21年度～	A	経験豊かな助産師が専門性を生かし、妊婦さんへの助言や相談を行う場として、助産師外来を継続しております。外来時から助産師との信頼関係を築くことにより、安心して出産に臨めるよう心がけています。 なお、23年度の受診者は678人で、22年度と比較すると若干減少しています。

5	専任看護師の配置	医療の高度化のため専門の教育を受けた専任看護師を配置する。医療安全、感染対策、褥そう管理、緩和ケアほか。	20年度～	B	23年度末で、専門の教育を受けた看護師は、『認定看護管理者』、『医療安全』、『感染管理』(認定看護師)、『皮膚・排泄ケア』(認定看護師)及び『緩和ケア』(認定看護師)が1人ずつの計5人です。 今後も継続して新たな専門の教育を受けた看護師の養成に努めます。
6	救急医療体制の強化	薬剤師の勤務に宿日直を導入し、24時間調剤できる体制を確立する。	21年度～	B	2次救急を担う医療機関として医師の体制を厚くするため、正規の宿日直医師のほかに臨床研修医を副直として配置しています。また薬剤部では21年4月から薬剤師2名を採用し、24時間調剤体制を開始しています。さらに、放射線技術科においては22年8月から奇数日(輪番制当番日)の24時間体制を開始しています。
7	リハビリテーション体制の強化	療法士の増員と言語聴覚士を新たに配置する。 (20年度当初:理学療法士6・作業療法士1)	20年度～	B	作業療法士は23年度に1名増員し、患者受入体制を強化しております。 また、言語聴覚士は22年3月より配置し22年度より本格的に稼働、音声・言語・摂食・嚥下機能の維持向上を図るための訓練及び検査に当たっています。 (23年度末:理学療法士6人、作業療法士2人、言語聴覚士1人)
8	地域医療連携ネットワークシステムの拡大	現在17医療機関であるが、これを拡大し地域の医療機関との連携を強化する。	20年度～	B	平成23年度においては、3つの医療機関に接続を増やし、連携を進めました。 なお、平成25年度からのID-Linkのシステム導入に向けて取り組みをスタートさせて、今後一層の地域との連携を図っていきます。

【収入の増加】

項番	項目	内容	目標年次	苫小牧市立病院自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
9	7:1看護体制への移行	看護師増員して、手厚い看護を実現する。	20年度～	B	23年度は、病棟看護師を24年3月末現在 正規職員207名、嘱託職員12名の体制で、前年度末と比較し正規職員は12名減少しましたが、7:1体制は維持しています。今後も看護体制の維持・さらなる充実を図るため、人員確保に努めていきます。
10	小児入院管理料2の算定	小児科専門病棟と看護配置増。	20年度～	A	H23年4月から算定開始することができた。1日につき400点増点となり年間で約3,000万円の増収となった。
11	総合入院体制加算(旧:入院時医学管理加算)の算定	急性期医療を提供する体制や医師の負担軽減の体制等を評価する入院時医学管理加算の算定を開始する。	21年度～	A	総合入院体制加算の施設基準の要件である、治癒率40%を維持するため、診療情報提供書の点検を行い基準を維持することができた。総合入院体制加算で年間約6,830万円、診療情報提供書の点検では前年が差額で約400万円の増収となった。
12	特定集中治療室管理料の算定	重症の患者への集中的な医療の提供体制を評価する特定集中治療室管理料の算定を開始する。	21年度～	C	23年度における集中治療室における入院患者数は1,642人(前年比△57人)で、1日あたりでは4.5人の利用となっています。 管理料を算定するにあたっては、看護師の増員が必要となるため当面は病棟看護師を優先した確保に努めることといたします。
13	DPC請求の開始	DPC請求への移行に合わせ、診療内容の分析・比較を通じた医療の標準化を図り、収入費や経費節減に結びつける。	21年度～	A	在院日数のコントロール、医療資源のコントロール、出来高算定項目の強化、適切な病名付けの共通認識、医療の質を把握し向上するという5つの項目について取組みを行い、年間約9,000万円の収益効果があった。

14	人工透析の拡大	急性期の透析に取り組み、設備の稼働率を高める。	20年度～	B	<p>23年度の透析患者数は、年間7,695件となり、前年度と比較して629件の増加となり、率にして8.9%の増となりました。</p> <p>なお、透析ベッドの稼働率につきましては、昨年度の55%からは5ポイント増加して60%となりました。</p> <p>外来の実患者数については、22年度の52名から43名に減少しました。</p>
15	査定対策の充実	査定対策委員会の活動を強化し、増収を図る。	20年度～	C	<p>委員会の活動状況については前年度同様でしたが、医師、部門への連絡調整を密に行い、請求委託業者には点検強化と再審査の強化を働きかけました。その結果、23年度の査定率は0.32%で、前年度比0.07ポイントの増加、金額では5,182千円の減収となってしまいましたが、再審査復活金額は前年度比168%増加、金額にして655千円の増収となりました。道内主要公立病院の査定率平均の0.33%よりは低い値となっています。</p>

【経費の節減】

項番	項目	内容	目標年次	苫小牧市立病院自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
16	職員給与の適正化	国家公務員と異なる支給となっている手当の見直しを行う。		A	国の制度にはない、「5級係長職の格付け」を平成23年1月1日施行で廃止しました。 冬季(12~3月)のみ支給していた通勤距離が1.5~2.0kmの通勤手当は、平成22年4月で廃止しました。また、国家公務員を上回って支給していた通勤手当について、平成23年3月議会で条例改正し、平成23年度の経過措置期間を経て平成24年4月1日に是正されました。 持家に対する住居手当の解消については、平成24年度以降、3年間の経過措置期間を経て、平成27年度で廃止となり、国家公務員と同じとなりました。
17	診療材料費の削減	診療材料の価格交渉に専門業者のノウハウを活用し、診療材料費を削減する。	20年度~	B	平成23年度は手術材料等の安価品目への切替を中心に5百万円の削減を実施しました。平成22年度の診療材料費に比べ、0.2百万円の減少となっています。
18	後発医薬品の採用拡大	後発医薬品の採用を計画的に総購入額の10%まで拡大する。	21年度~	A	平成23年度は東日本大震災の影響により、品目数については微増でしたが、購入金額は約1億4百万円で、薬剤総購入額の10.50%となり、計画値を達成することが出来ました。経営効果額は92.6百万円となりました。
19	光熱水費を削減	発電量と買電量の配分を見直すほか、省エネの取り組み。	20年度~	B	22年度に引き続き、コージェネや空調機等の運転方案の見直しを行いました。 21年度から5か年で合計5%(21年度比較)の光熱水費減を目標とし、苫小牧市役所エコオフィスプランに掲げられている取組みを実践する等、電気・ガス・水道使用量の節減に努めております。具体的な取組みとしては、病院内でのこまめな消灯の徹底や、各機器使用に関する節電等があげられます。今後もガス単価等の大幅な値上げが予定されていますので、さらに省エネに努めてまいります。

20	産業廃棄物処分手数料を削減	感染性医療廃棄物の分別見直しにより、処分手数料を削減。	20年度～	B	<p>昨年度よりも感染性廃棄物発生量は増えていますが、処分費単価が下がったため、前年度より255千円の削減になりました。平成21年度から標準予防策のレベルアップを行ったことにより、平成20年度よりも感染性廃棄物発生量は増えていますが、分別が徹底されるようになり、費用は平均化しています。今後も院内周知により、分別の徹底に努めます。</p>
21	コスト意識の醸成	病院の経営情報を職員が共有するため、定期的に経営ニュースを発刊し、コスト意識を高める。	21年度～	B	<p>24年3月に「財務通信」を発行し、24年度の予算が成立したことや23年度の決算見込の状況等の情報を職員に周知しました。周知方法は、各職場に紙面として配布したほか、院内ポータル画面上のインフォメーション機能を活用して、多くの職員の目に触れるよう工夫し、24年度の目標達成のため、意識改革を求めました。</p> <p>また、毎月開催している全体管理者会議において経営状況を報告し、各職場内への周知に努めました。</p>

【患者サービスの向上】

項番	項目	内容	目標年次	苫小牧市立病院自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
22	患者意見の反映	ご意見箱等に寄せられた患者さんの意見とこれに対する病院の回答をホームページ等で公表する。	20年度～	B	23年度もご意見箱の運用を継続しており、全件について毎月の業務改善部会で回答を作成し、1階ロビー掲示板には3ヶ月分を、情報コーナー並びに当院ホームページには過去分を含めて閲覧できるよう公表しています。また、ご意見は回答するだけでなく、検討し業務改善につなげています。23年度は9件の改善を実施しました。なお、接遇など職員の対応についての苦情は、全件について関係部署に通知し個別に改善するようにしています。
23	患者満足度調査の継続実施	患者満足度調査や待ち時間調査を定期的実施し、サービス向上に結びつける。	20年度～	B	23年12月に「外来待ち時間調査」を、24年2月には「入院満足度調査」を実施しました。 23年度の待ち時間調査では、予約がある患者さんについては「1時間以内に診察を受ける」割合が前年度よりも3.6ポイントアップして62.8%という結果になり、放射線や採血、検査についての待ち時間についても改善が見られました。 一方で、予約なしの患者さんが「1時間以内に診察を受ける」割合が前年度よりも17.8ポイントダウンして26.3%となり、一層の改善が必要な点も残りました。
24	接遇研修の実施	患者サービス向上のため、委託業者の職員を含めた接遇研修を定期的実施する。	20年度～	B	20年11月接遇改善部会を設置し、23年度は委託事業所を含めた接遇研修会を2回実施し、延150人の参加を得ました。さらに21年度から接遇マニュアル作りに着手し、22年度全職員(委託事業所含む)に配布して以降、毎年度新採用職員に配布しております。また、この接遇マニュアルに基づき接遇身だしなみ院内ラウンドを2回実施いたしました。
25	病院広報誌の発行	病院と患者さんのコミュニケーションの一助として病院広報誌を定期発行する。	21年度～	A	23年度において、病院広報誌「みんなの市立病院」No.012～017を発行しました。発行回数を重ねるごとに、見やすい紙面、内容の充実に努めました。今後は、患者さんへ、広報誌に対するアンケートを実施する等、広報誌をさらに充実させる取組みを実施してまいります。

【人材の確保】

項番	項目	内容	目標年次	苫小牧市立病院自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
26	医師確保の取り組み	医師の負担軽減や勤務条件の改善を図り医師の確保に努める。	20年度～	C	23年4月1日現在の医師数は71名で(うち初期研修医は11名)前年同月比同数を確保いたしましたが、年度末に麻酔科で、3名のうち2名が退職いたしました。救急の当直医師の負担軽減措置としては、「コンビニ受診の抑制」PRや、苫小牧市夜間・休日急病センターの新施設での開院に伴い一次救急患者が引続き減少したことが大きな効果となりました。また、初期研修医や若い医師が増加したことがマンパワーの強化となり、職場の活性化に大きく寄与しています。
27	看護師確保の取り組み	採用試験の適宜実施や病院見学会、就職説明会の実施などにより看護師確保に努める。	20年度～	B	定期採用試験を年4回実施のほか随時期の公募も強化しました。病院見学会を毎月実施(参加者希望者がいない場合は中止)、苫小牧看護専門学校をはじめ、胆振日高管内の学校訪問により就職説明会を実施しています。23年度は、正規看護師の退職者16名に対し、19名の採用ができました。また、23年4月の看護学生への学資金貸与制度を開始し、将来の看護師確保に向けた取組を進めてきました。
28	医師の事務負担を軽減	医療事務補助者を採用し、外来部門への配置	20年度～	B	平成20年11月から5名にて100対1を、平成21年8月から10名にて50対1を、平成23年7月から現在も18名体制にて25対1医師事務作業補助者体制加算の届出を行なっております。医師の指示のもと事務作業を主な業務としていますが今後とも医師の意見を聴き、配置や担当する業務内容について継続的に検討してまいります。

29	院内保育所の24時間化	女性職員の勤務継続を支援するため、院内保育所を24時間化する。	21年度～	B	21年4月より24時間保育、日・祝日の開園および学童保育(小学生)を実施しています。定員50名で事務職員を除く病院職員の児童を対象に受入れしております。開園時間は、原則7:30～19:30で、週2日を24時間保育の日としております。23年度利用実績は、24時間の利用がなく、延長(21:00頃まで)の利用が延5人、学童保育が延86人となっています。
30	研修の強化	医師・看護師をはじめとする医療スタッフの専門性を高めるため、外部研修や学会への参加を拡大する。	20年度～	B	職員の研修参加等に係る旅費について、医師は1人あたりの定額配当により道内外の学会出席旅費を確保しています。また、認定看護師の資格取得等に関する旅費の補助を行いました。
31	事務プロパー職員の採用検討	専門性を必要とする病院事務職員のプロパー採用を検討する。	20年度～	B	23年度は、嘱託診療情報管理士3名をプロパー職員として採用しました。外部委託としていた診療記録管理室を直営化し、診療録管理体制の強化を図るとともに、今後の専門職員のプロパー化に向けた取組を開始しました。

【経営体制の強化】

項番	項目	内容	目標年次	苫小牧市立病院自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
32	地方公営企業法の全部適用を検討 (21年度に取組済み)	Ⅳ 経営形態見直しに係る計画に記述	21年度～	A	21年度の経営改革評価委員会において、「地方公営企業法の全部適用」の是非について協議を行い、検証を行った結果「地方公営企業法の一部適用」を継続するとの結論となり、評価報告書として市長に提出されました。 22年2月、市長、副市長等で構成する政策会議において、委員会の報告に基づき「一部適用を継続する」との意思決定が行われました。
33	組織の見直し	効果的・効率的な病院運営を行うための組織見直しを行い、経営健全化に結びつける。	21年度～	B	平成24年1月から、専任看護師室を設置し、看護部や事務部に分散して配置されていた認定看護師や専門研修を受けた看護師を組織的に一元化し、業務の効果的かつ効率的な運用を図りました。

経営改革プラン 23年度実績・病院自己評価(各年度の収支計画)

(単位:千円)

【収益の収支】

項番	項目	19年度 実績値	20年度 見込値	20年度 実績値	21年度 計画値	21年度 実績値	22年度 計画値	22年度 実績値	23年度 計画値	23年度 実績値	差引き	苫小牧市立病院自己評価・分析	
												評価	コメント
1	病院事業収益	7,842,057	8,369,949	8,398,352	8,785,198	9,036,568	8,943,258	9,538,165	9,022,700	9,921,193	898,493	A	計画値を大幅に上回りました。
2	医療収益	7,295,108	7,604,936	7,624,866	8,030,009	8,287,089	8,194,963	8,740,340	8,226,855	8,946,957	720,102	A	計画値を大幅に上回りました。
3	うち入院収益	5,089,294	5,247,807	5,255,171	5,596,683	5,625,144	5,681,829	5,939,724	5,713,721	6,028,699	314,978	A	患者数は若干減少しましたが、診療単価が大幅に増加しました。
4	うち外来収益	1,864,089	1,923,973	1,944,748	1,974,511	2,176,902	2,054,319	2,277,501	2,054,319	2,402,122	347,803	A	患者数は減少しましたが、診療単価が大幅に増加しました。
5	医療外収益	512,218	592,321	600,894	582,495	576,787	575,804	625,134	556,089	728,480	172,391	A	計画値を大幅に上回りました。
6	特別利益	34,733	172,692	172,692	172,692	172,692	172,691	172,691	239,756	245,756	6,000	B	計画値を上回りました。
7	病院事業費用	9,120,310	9,856,061	9,785,840	8,860,393	9,203,713	8,733,482	9,400,705	8,659,452	9,368,797	709,345	C	実績値は前年より縮減しましたが、計画値を大幅に上回りました。
8	医療費用	8,208,186	8,521,312	8,457,849	8,515,249	8,871,817	8,397,417	9,043,639	8,336,103	9,078,635	742,532	C	計画値を大幅に上回りました。
9	うち職員給与費	3,841,978	3,913,911	3,899,712	3,952,555	4,212,054	3,852,555	4,335,034	3,852,555	4,345,898	493,343	C	計画値を大幅に上回りました。
10	うち材料費	2,123,383	2,144,397	2,137,197	2,103,900	2,130,702	2,114,827	2,146,929	2,123,426	2,156,568	33,140	C	計画値を上回りました。
11	医療外費用外	481,068	322,146	322,895	323,644	308,089	314,565	291,280	301,849	272,284	△ 29,555	B	計画値を下回りました。
12	特別損失	431,056	1,012,603	1,005,096	21,500	25,807	21,500	65,786	21,500	17,868	△ 3,632	B	計画値を下回りました。
13	経常収支	△ 881,930	△ 646,201	△ 562,893	△ 226,389	△ 313,199	58,585	31,373	144,992	325,162	180,170	A	計画値を大幅に上回りました。
14	当年度純損益	△ 1,278,253	△ 1,486,112	△ 1,386,522	△ 75,197	△ 166,314	209,776	138,278	363,248	553,050	189,802	A	計画値を大幅に上回りました。
15	利益剰余金又は累積欠損金(△)	△ 4,570,667	△ 6,056,779	△ 5,957,189	△ 6,131,976	△ 6,123,503	△ 5,922,200	△ 5,985,225	△ 5,558,952	△ 5,432,175	126,777	A	計画値を大幅に上回りました。

(単位:千円)

【資本の収支】

項番	項目	19年度 実績値	20年度 見込値	20年度 実績値	21年度 計画値	21年度 実績値	22年度 計画値	22年度 実績値	23年度 計画値	23年度 実績値	差引き	苫小牧市立病院自己評価・分析	
												評価	コメント
16	資本的収入	852,360	1,631,207	1,629,707	704,747	712,347	796,917	805,152	676,909	691,200	14,291	B	計画値を上回りました。
17	うち企業債	425,200	998,100	996,600	28,500	27,100	100,000	72,300	100,000	86,200	△ 13,800	B	国庫補助金を活用した分、企業債を縮減できました。
18	うち他会計出資金・負担金	427,090	610,393	610,394	676,247	676,247	696,917	697,387	576,909	575,425	△ 1,484	B	ほぼ計画どおりの結果となりました。
19	資本的支出	1,329,318	1,009,984	1,005,485	1,069,585	1,075,933	1,166,292	1,171,549	1,175,714	1,184,214	8,500	B	計画値を上回りました。
20	うち建設改良費	435,904	70,273	65,784	34,500	40,849	103,000	111,120	103,000	118,262	15,262	B	新病院移転後5年を経過したため、医療機器購入の増加で計画値を上回りました。
21	うち企業債償還金	893,414	939,711	939,711	1,035,085	1,035,084	1,063,292	1,060,429	1,072,714	1,060,552	△ 12,162	B	計画値を下回りました。
22	収支差引	△ 476,958	621,223	624,212	△ 364,838	△ 363,586	△ 369,375	△ 366,397	△ 498,805	△ 493,014	5,791	B	計画値を上回りました。

苫小牧市立病院経営改革プラン評価基準表

経営改革プランの進捗状況に対する評価は、A～Eの5段階評価で、それぞれの評価基準は次のとおりです。

評価	評価基準
A	プランの目標値を余裕をもって達成し、ある程度の附加価値が生じた。
B	プランの目標値は達成した。
C	プランの目標達成に向けて取り組みはしているが、現状未達成である。
D	プランの目標達成に向けて取り組めていない。
E	検討されていない。